

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会ニュース

—9月20日、「核兵器禁止条約」の署名が開始—

「日本政府がすみやかに核兵器禁止条約に署名し、国会が批准することを求める請願」を県・市町議会へ提出

9月8日、盛岡市議会各会派を回る

公明党除く4会派、9月議会で採択か！ 5人が紹介議員に

七月七日国連で核兵器禁止条約が採択されて二カ月になりました。署名が開始される九月二十日から日本政府が速やかに署名し、国会で批准するよう国内世論を大きく高めていくことが、いま求められています。

「岩手の会」の幹事会で確認された、日本政府の署名と国会の批准を求める意見書採択のための請願を県議会と各市町村議会に提出してきました。

九月議会に間に合わず、十二月議会になる所もありますが、多くの議会では「会」に所属する団体の議員の奮闘で審議が行われています。

九月八日、県被団協の三田副会長と下村事務局長が盛岡市議会を訪れ、市議会最大会派の盛友会の佐藤栄一市議の紹介で五つの会派と無所属市議に請願の紹介議員をお願いに回りました。公明党除く四会派と無所属五人の市議が署名し提出することができました。回りながら市議の署名も戴きました。

九月議会では花巻市、北上市、久慈市、二戸市、陸前高田市、大船渡市、紫波町、平泉町、軽米町、一戸町、洋野町、九戸村の十二市町村が見込まれ、議員発議は一関市、奥州市、金ヶ崎町の三市町となっています。

9月20日(水)、15:30~16:30 「岩手の会」いっせい行動 盛岡第一高校、第三高校～生徒下校時に署名を

6日の幹事会で、9月20日から26日世界規模の「ピースウェーブ」(平和の波)に岩手の会として、どう取り組むか話し合い、各団体は署名に全力をあげることを確認しました。

初日の20日は、先月の経験(南高校での署名)と被団協が催した8月の高校生中心の「トークセッション」の経験を生かして、市内高校生へ署名を働きかけることになりました。対象校は、盛岡第一高校と第三高校の二校で、生徒の下校時午後3時30分から一時間行うことを決めました。

- ★盛岡第一高校～正門前と裏門の二カ所、集合は正門に
 - ★盛岡第三高校～正門前と駐輪場の南側の二カ所、 "
- 会の皆さんの沢山の参加を期待します。

9月6日(水)いっせい宣伝・署名行動



盛岡市肴町ナナック前で12:15から30分間、宣伝と署名行動を行いました。

北朝鮮の核実験強行に抗議し、北朝鮮に核実験中止を迫る上でも、日本政府を核禁止条約に参加させる世論を高めようと署名を訴えました。74歳の女性は「北朝鮮と武力で対抗するよりも、先ず話し合いをして」と語気を強めて署名に応じました。

30分で70筆の署名が寄せられました

20人の参加、署名70筆

声明：北朝鮮の核実験に抗議する

被爆者は、満身の怒りをこめて北朝鮮の核実験に抗議する。7月7日採択された核兵器禁止条約は核兵器の実験、使用はおろか威嚇も禁止している。核兵器の禁止は今や世界の潮流である。今回の核実験はこの潮流に背を向け、後戻りさせる暴挙であり、断じて容認できない。

核兵器の使用を言い合うトランプ大統領と金正恩委員長は、核兵器がどんなもんか知っているだろうか。広島・長崎に投下された原爆は、一瞬にして街を壊滅し、多くの命を奪った。それは、この世の出来事とは信じられない生き地獄であった。かろうじて生き延びた被爆者も熱線、爆風、放射線を受け、いのち、からだ、くらし、こころに受けた傷は深く、その苦しみは七十二年たった今も続いている。

被爆者は、アメリカの原爆投下を許さない。しかし、報復を求めたことはない。地球上の誰にも同じ苦しみを味わわせてはならない。核戦争を起すな、核兵器をなくせ、ふたたび被爆者をつくるなは被爆者の願いである。いかなる国の核実験、使用、威嚇も認めない。

被爆者は、日本政府に要求する。
核兵器禁止条約に署名し、批准すること。

唯一の被爆国として、また国際紛争の解決を武力によらないことを定めた憲法を持つ国として、同盟国アメリカを説得、隣国北朝鮮を促して対話による解決に尽力すること。

二〇一七年九月六日

日本原水爆被害者団体協議会